

じんけん 丹波

いろいろ
がいろいろ
いいね！
♡

人権啓発冊子「じんけん丹波」NO.10

丹(まごころ)の里



丹波市

発刊にあたって

「21世紀は『人権の世紀』」といわれ、平和と人権が尊重される世紀にしたいという願いが込められています。世界各地ではいまだ人種や民族、宗教観等の違いから紛争やテロが多発し、尊い命が犠牲となっています。

国内においては、虐待で子供の命が奪われたり、高齢者の所在や生存が不明になるなど、地域社会でのつながりや交流の希薄化が要因となり、孤立化、無縁化することから起こる問題も発生しています。

そのような中、昨年の丹波市豪雨災害では、全国から沢山のボランティアが駆けつけてくださるなど、内外から多くの支援や励ましをいただいたことに、改めて、市民一人ひとりが、人と人とのつながりや地域での助け合いの大切さに気づかされたことと思います。人は、一人で生きているのではなく、お互いに支え合って生きています。他の人の人権を守ることが自分自身の人権を守ることに繋がります。

丹波市では、誰もが安心して暮らし、自分らしく生きることができるようまちづくりをすすめるため、「人権文化をすすめる市民運動」を展開し、人権尊重のまちづくりを進めています。

今回、各方面の方々の「人権」や「生き方」に関する作品を掲載した人権啓発冊子「じんけん丹波（No.10）」を発刊いたしました。各家庭や職場での人権意識の高揚並びに実践的態度の形成に向けた取り組みの一環として、有意義にご活用ください。

平成27年3月

丹波市長 辻 重五郎



もくじ

「仮設住宅に暮らして初めて、幸せを感じたんだよ」	ちひろ	1
自分にできる解放運動を	渡辺千賀子	3
自分らしく生きる選択肢を広げるために	白井 文	5
子どもと人権	柴田愛子	7
「いじめ」と闘う	今村克彦	9
「寄り添うこと」	氷上中学校3年 芹田詩旺	12
ジェンダーチェック		14
「人権啓発ポスター」優秀・優良作品		17
「じんけん標語」優秀・優良作品		19
「人権文化をすすめる市民運動」について		20



「仮設住宅に暮らして初めて、幸せを感じたんだよ」 いのち心の絆

歌手・作曲家 ちひろ



東日本大震災の翌年から毎年、福島県で「復興応援コンサート」をさせていただいて、金子みすゞの詩や、童謡唱歌と一緒に歌っています。

昨年4月、南相馬市の勝縁寺本堂に、仮設住宅で暮らしのおられる約30名の方々が送迎バスに乗って集まってくれました。

コンサートの後に、広島から来られたお坊様の炊き出しの夕食を、みんなでいただきました。

その席で、80歳近いだろうかと思われる女性が、こう話されました。

「私は、仮設住宅に暮らして初めて、幸せを感じたんだよ。」

耳を疑いました。私は、こんなつらい思いをして：と、苦しい思いの言葉を聞くものと覚悟していました。

もちろん、他の方々とはそのような話にもなりました。その女性はこう続けられました。

「私は幼い頃に父親を戦争で亡くしてるから、父の記憶は全くないし、母も若くして亡くなってしまった。だから結構苦労してな。結婚はしたもの、農業を営んでいけるけれど、赤字続きでうまくいかない。そんな中、あの震災が起こったんだよ。春菊の栽培をしていて、その日も作業小屋で作業をしていたんだけど、大きな揺れが起こってな。その直後に『津波が来っぞー』と声が聞こえたもんだから、父ちゃんと二人、何にも持たずにサンダル一つで逃げたんだ。避難所に着いてしばらくして落ち着いたから、家さ見に行こうと思って戻ってみると、そこにはもう、土台しか残ってなくて、全部流されちゃってた。おらの人生、何てつ

いてないんだろうって、思ったんだよ。それから、仮設住宅に移ると、いろんな話を聞いてな。ある家族は、みんな流されちゃったと聞いたし、また別の家族は母親だけが生き残って、他の家族みんな奪われちゃったとも聞いた。おらは父ちゃんと二人、生き残らせてもらって、なんて有難いんだろうと思ったんだよ。それにな、仮設住宅に暮らしていると、たくさんの人がいてなあ。生まれて初めて、人と人の触れ合いってものを感じたんだ。だから私は、仮設住宅に暮らして初めて、幸せを感じたんだよ。」と。

そして、満面の笑顔で、

「うちの父ちゃんはな、もう70過ぎてっけど、まだ外に働きに出てんだよ。だって、おらたち、また新しい家建てるんだあ」と。

最後に、こう語られました。

「あんたも、幸せになるんだよ^お。」

まるで、逆の立場に感じる言葉でした。でも、私はその言葉を聞いて思ったのです。

人は、笑顔の奥に、いろんな人生を抱えて生きているのだと。そして私は、これからの出会いの中で、相

手の笑顔、醸し出す雰囲気の奥に、その方のそれまでの人生を感じられる人間でありたいと。

今、日本各地で災害が起こり、丹波市も私の住む山口市も被害に遭いました。あたり前に過ごしている毎日のすべてが、実は有難い尊いものであることを痛感します。そして、その中で、目に見える贅沢な暮らしより、心通い合う中で感じる「生きている」実感こそ、本当の倖せなのだと、気づかせていただきました。

いのちは、その心の絆。受け継がれる鎖。しっかりとその鎖同士が結びつき、見えなくとも感じる喜びをみんなで分かち合い、いのちを繋いでいきたい。



自分にできる解放運動を

オペラ歌手 渡辺千賀子



1992年から始めた人権コンサート「小さな手のひらコンサート」は今年で23周年となります。全国各地、ご支援いただいております皆様のおかげで、このコンサートもすでに千回を超えております。

この「小さな手のひらコンサート」を展開することになったきっかけは、小学校の講師として、当時住んでいた町の教育長からの、何回もお電話での依頼に根負けし、初めて小学校に勤める事になったことから始まりでした。

最初に勤めることとなった小学校では、教師同士のいじめ、セクハラ、わいせつ行為、子ども同士のいじめ、保護者が子どもを虐待する、先生が暴言を吐いたり暴力をふるったりするのが当たり前のようにされていたのです。

また、学校の現場では、行政や教師の片寄った同和教育が広がっていたという現実から、人権について考えるようになりました。

「人権」とは生まれながらにして平等であり、誰からも邪魔をされてはいけないもの、という「基本的人権の尊重」にもあるように、一部の人々の損得だけで濫用されてはいけないものなのです。そんなことから、子どもにも誰にでも解りやすい方法で、人権について語れることは無いかと、私はたまたま歌手ということもあって、「歌で語ろう」とやり始めたのです。

最初は、小さな公民館で始めた事で、聴いていただいたお客様から次々と口コミで依頼が来て、現在に至っています。

私は、私たちには一人ひとり役割があると思っています

ます。演説をすることで解放していく人や、絵画で訴える人、お芝居で元気を与える人、近所のちょっとした話し合いで運動を展開していく人等々、それぞれに役割があるのだと思うのです。

決して「自分だけが何でも知っていて、自分だけが解放運動をやっている」というおこがましい考えは持たず、一緒に運動をして行くことへ変換していかねばならない時期に来ているのではないのでしょうか。

以前、「部落と言うイメージは、悲しくてドロドロしていて、辛い毎日を送っていないといけない」と言った同和教育担当の教師がいました。これは明らかに差別ですが、本人はそうは思っておらず、「そのような部落民に手を差し伸べてやるのが同和担当としての仕事だ」と胸を張って言うのです。

しかし、まず、それが間違いだと言う事に気付くことから始まりなのです。私達人間は常に間違った事を言ったり考えてしまったりするものです。しかし、そこに気付くかどうかというのが人としての解放の始まりではないでしょうか。そして気付いたなら、自分にできる事から行動していくという運動の展開が今一番求めら

れているのではないのでしょうか。そしてヒーローを作るのではなく、誰かがやってくれたらいいという考えから、みんなで解放して行こうという考えに展開していけたら、少しずつ世の中が変わっていくのではないかと、そう思うのです。

日々、世の中が変わっていく現在、今までの運動のやり方を見直し、誰かにやってもらうと言うのではなく、一人ひとりが生かされている事の意味を知り、自分でできる解放運動をやらなくてはならない時に来ているのだと思うのです。



自分らしく生きる選択肢を広げるために ～男女共同参画社会の実現に向けて～

前尼崎市長 白井 文



大阪天満橋のドーンセンターでは、母子家庭のお母さんたちの特性に応じた職業訓練を開催しています。カリキュラムは、2カ月で1クール、主な内容はパソコン技術の習得です。

私はANNAのOG会のメンバーとしてお母さん達にエールを送りたく、訓練の一講座を担当させていただいています。

様々な働き方を知るきっかけとして「はなみずきカード」を使いワークショップをします。

「はなみずきカード」とは、ドーンセンターの講座で講師を務めた女性たちが、参加者に送ったメッセージを書き記したもので、心に残る多くの言葉が残されているのです。

その日、いつものように机の上に広げたカードの中から、10代であろう一人のお母さんが選んだ言葉は「断らない」でした。

私がなぜこの言葉を選んだのか？と聞いたところ、彼女は「私は、出産費用を稼ぎ、子どもを育てるために牛の解体をする仕事をしてきました。自分の上司で、シングルマザーのその人は、新たな作業に挑戦しないかと定期的に提案をしてくれます。でも私は、牛の解体をするだけで精一杯で、とても新たな事に挑戦することとはできないと断り続けて来ました。すると上司は、あなたに本当にできないことは頼まない。努力したらできることを頼んでいるのよ、と言いました。そういう上司の考えを知り、頼まれたら断らないで挑戦しよう

うと決意したので『断らない』を選びました。」と答えてくれました。

彼女は、一人で子どもを育てるために時給が高い仕事を選んだものの、その業務のハードさに余裕がなく目の前の仕事をこなすことだけで精一杯だったのです。しかしその彼女は、一念発起して転職する為に技術を身につけようと職業訓練に挑戦しました。

彼女にとっては、働くことが生きることであり、子どもを育てて生きていくためには仕事を中断して訓練を受けるなんて無理だと一年間悩み迷ったそうです。

そんな中「今まで本当に一生懸命がんばってきたのだから、2ヵ月位自分のために使っても良いのじゃない？」と言って背中を押してくれた人がいたので、彼女は職業訓練給付金をもらって訓練を受ける、という選択ができたのでした。

母子家庭のお母さんたちは、子育てに伴うリスクがあるといった理由等で安定的な仕事に就くことが難しい状況にあります。

私は、ドーンセンターで出会った先のシングルマザー

ーを取り巻く人達が、彼女が自分らしく生きていくための選択肢を広げてくださったことをとても嬉しく思います。

私たちは、日々様々な人の影響を受けますが、又一方でいろいろな方達に影響を与えてもいます。

一人でも多くの女性達が、社会の一員として生き生きと暮らしていくために、困難を抱えている女性達を支え、成長を助けていけることも男女共同参画社会の実現には必要不可欠なことだと思っています。



子どもと人権 日々のことから

りんごの木代表 柴田 愛子



「人権」と聞くと堅い言葉のようですが、本来特別なことではないのです。

それぞれ人は人間らしく生きるための権利を持っているということですから「私、生きています」くらいの当たり前のことです。そして、「子どもも生きています」ということです。

子どもはまだ自分の力で生活できませんから、保護が必要です。衣食住と心の温もりが、子どもに安心感を与えます。子どもの人権とは「子どもを人として大切に育てましょう」ということと理解すればいいのではないのでしょうか。

ところが、どうも我が子が何より大切と思いながら、日常的には雑につきあってしまっています。

「早く起きなさい！」から始まって「早くしないと

遅れちゃうでしょ！」「もう、ぐずなんだから」「どうしていつもあんたはこうなの？」「早くご飯食べないと」「よくかんで！」「味噌汁残っているでしょ！」「肘つかないの！」「足を立てない」「忘れものない？」「先生に呼び出されるのはいやだからね」……「いつていらっしゃい」まで、怒濤のごとく言葉を浴びせていませんか？

きつと、その間、子どもは無言。

学校、幼稚園、保育園から帰ってきたら「今日どうだった？」子どもが「忘れた」というと、「どうして、心配しているのにそうなの。忘れてないでしょ！」から始まって「宿題は？」「テレビはいい加減にしなさいよね」「お風呂入っちゃってよ」と、これまた怒濤のごとく指示、命令語が。

子どもがテストを持って帰ってきました。いつもよりずっといい成績です。80点。子どもが自慢げに差し出します。「あら、すごいじゃない」これで終わればいいものを「やればできるんじゃない。こんどは90点だね」と、余計なおまけがついてしまいます。

こんな日常にお心当たりの方もおられるのではないのでしょうか？

文字で読んでみると、かなりすごいですよね。でも、ほとんど無意識に口をついているので自覚はない？「人権」なんてどこかに飛んでいってしまいました。

子どもが困らないように、子どもの将来を思っている親心。しかし、この親心が子どもを苦しめていることがあるのです。毎日のことです。子どもは「耳にたこ」で聞き流せるようになっていくかもしれません。でも、自分を誉めてくれたり、評価してくれる親の言葉子どもは望んでいます。親に見捨てられないように、親の顔をいつもうかがっています。そして、何より子どもは無条件に親が大好きです。親の笑顔を求めています。

子どもにとって安心して生きるためには、親に喜ん

でもらえる存在でいたいのです。親も子どもを引き受けているけれど、子どもも親を引き受けているのです。親もかつては同じ子どもでした。自分の子ども心を出して、親に言われてイヤだったことは、言わないように気をつけたいものです。

あなたの笑顔子どもにあびさせてください。

子どもは自ら育つ力を持っています。安心な環境、何かあったときに帰れる居場所さえあれば、困難にも乗り越えて前向きに歩いて行けます。ありのままの子ども姿を受け入れることが、子どもの人権を尊重することになるのだと思います。



「いじめ」と闘う

ダンスチーム関西京都今村組代表・非営利型
一般社団法人日本共育プロジェクト代表理事

今村 克彦



「いじめ」が問題になるとよく各界の著名人がテレビから呼びかける。

「君の将来には輝かしい未来が待っている。だから命を絶ってはだめだ」と。

これが間違っているのである。いや内容が間違っているのではなくアプローチがまちがっているのである。今いじめを受けてそれこそ「死」さえも考えている子ども達に「輝かしい未来」を説いたところで届くはずはない。冷静に考えるならばいじめで「死」さえも考えるならその前に例えば転校するとか（良い解決方法とは言えないが）色々いじめから逃れる方法がある。「死」を選ぶくらいならその方がよっぽどましなのだから。しかし子ども達は「死」を選ぶ。それはなぜか？

答えはいじめを受けている子ども達の世界観という

か視野は極端に狭まっているからである。時間も空間も極端に狭められ未来の事どころか明日のこと、今日のことしか見えなくなっている。「明日、お金を持っていけないとどうなるんだろう」「これから毎日こんな事が続くんなら死んだ方がましだ」など時間も空間も閉じてしまっている。

私は常々子ども達を指導する時「楽しいことは長いスパンで漠然と見なさい。嫌なことは短いスパンで具体的に見なさい」と指導する。

例えば学校に行くのをいやがる子どもに対して「何が嫌なのか具体的にあげてみよう」と問いかける。するとその答えを意外にも簡単に「水泳がいや」などと簡単なものが多い。「じゃあ水泳の学習を休みましょう」となる。

高校2年の秋に「これからもう1年半も学校に行くのはいやだ。学校なんて何も楽しくない」と学校を辞める事を希望していた子に対して「とりあえず今週は行こうよ。今週5日がんばれば週末にはあなたが楽しみにしていた○○があるじゃない。」と短いスパンで考えさせる。彼女は短いスパンの積み重ねで1年半を乗り切り高校を卒業し今大学に行っている。

それと同じようにいじめで死を考えている子には具体的に何が嫌なのか、なぜ『死』さえも考えるのか、そしてそれがどれほどばかげた事なのかを説いてやる必要がある。

2年前私はある高校生に出会った。

その子は高校2年生の男の子でいじめを受けて「自殺」をはかる直前の子であった。

ある日の昼にその子のお母さんから「浩（仮名）がいじめを受けていました！ 遺書も見つけました！」と半狂乱の電話をしてきた。

私はすぐに浩とご両親を私の自宅に呼んだ。

うちに来た浩は元来底抜けに明るいはずなのに見る影もなく暗く沈んで目もうつろだった。

お母さんが泣きながら見せてくれた遺書には「もう

お金がない。120万円も渡した。悔しい。殴られるのはもう嫌だ。」と書かれてあった。

これ以後、私と浩の会話を綴っていく。

私.. 120万も渡したん？

浩.. うん……

私.. まだお金要求されてんの？

浩.. うん……

私.. いくら？

浩.. 10万……

私.. まだなんとかなるの？

浩.. もう無理……

私.. 持つて行かないとどうなるの？

浩.. 殴られる……

私.. それで？

浩.. それで？って…… 殴られる……

私.. 殴られるだけ？手一本とられる？足折られる？

浩.. そんなん無い！

私.. へえ、殴られるだけで死ぬんや?! あほく

さ！ そんな事で死ぬって騒いでる奴なん

て生きてたって意味無いやん。死ね死ね。

その方が世の中のためやん。あほくさ！

（この時初めて浩の顔に血の気が戻って来た。私はそれを逃さず続けた）

私…浩、もう1回聞く。お金持っていかにへんかったらどうなる？

浩…殴られる…：：： そうや、殴られるだけや…：：：

私…浩！ 殴られようぜ！ ほんで先生と一緒に警察行こう！

浩…そんなしたらまた殴られる。

私…じゃあまた行こう！ 浩ええか、これは完全に犯罪や。1回警察に行った段階でそいつらはもう終わりや！ 浩、根性出せや！

翌日、私と浩とご両親は警察に行った。

すぐに警察から学校といじめをしている子らの家に連絡が行った。

その翌日私は浩に付き添ってその子らが学校に行くために乗り込む駅に行った。

浩は恐れていたが私はほとんど強制的にそこに連れて行った。そしてその子らは浩の姿を見止めるとすぐにそそくさと逃げるようにして姿を消していった。

私は浩に「おまえがビビってた奴らは所詮こんなもんや。どうや浩？」と話しかけると浩は「ほんまや、あいつらあんなに根性なかったんや。ビビってた俺があほみたいや。」と答えた。

私はそんな浩に「浩、死ぬか？」と笑いながら聞くと浩は元来の明るい笑顔で「いやや！」と笑い返した。その後、その子らはご両親に連れられ浩の家に謝罪に来た。

その時彼らは顔も上げられず「浩君に悪いことをした。許してほしい」と謝罪したらしい。

私の荒っぽいやり方をそのままねでる物ではない。ただ、エクスとして感じ取ってほしい。

いじめられて追いつめられている子は視野も時間も極端に狭められ、「今」しか見えなくなっている。そしてなされるだろう事実以上に「おそれ」「おののいている」。

その事を知らしめてやる必要がある。

必要以上に恐れおののいている彼らに本当の現実をリアルに見せてやるのが一番大事なのである。

ちなみに浩をいじめていた子らはその直後に転校し、浩は今、彼女も出来明るく大学に通っている。

「第34回中学生人権作文コンテスト」兵庫県大会丹波・篠山地区予選 最優秀賞作品

寄り添うこと

氷上中学校 3年 芦田 詩旺



東日本大震災から3年がたちました。今年で4度目の夏を迎えます。そして今年も震災や津波の影響を受けた祖父母の家をたずねる予定です。そこを訪れる度にがれきはきれいにかたづけられ、道路も整備され少しずつ復興に向かっていると感じます。

しかし、震災を受けた人々の気持ちや生活はどうでしょうか。

ニュースや新聞では、仮設での孤独死や福島原発問題が取り上げられています。また、原発によって仕事を失くし、未来に希望を持ってないとの理由で自殺する人もいると耳にします。そのようなニュースを聞くとやり切れない思いになります。

ところが、時がたつにつれて遠いところで起きたことと思い、私たちの震災に対する意識は身近に感じることに

なく、寄り添うということを忘れていっているように思います。どうしたら被災地の人たちに寄り添い、分かち合えるのでしょうか。毎回行く度に自問自答を繰り返します。

あの日、祖父母が長年住み慣れた家も地震と津波が襲いました。祖父母の家は幸い津波で根こそぎ流されるということはありませんでしたが、地震と津波の被害を受けたため、祖父母は2年半の仮設住宅生活を送ることになりました。やっとのことで家を直し、最近ようやく、元の家に住めるようになったのです。

ですが、実際に元の家に戻ってみると、これまでのコミュニティはなく、夜はこれまでであった家々の暖かな明かりはほとんどありません。昼も夜も周りがシーンとしていて、とても物寂しさを感じたと言っていました。祖父母の家の周りでは、もちろん流された家もたくさんあ

るし、家を直せずにいまだ仮設で暮らしている人たちがたくさんいます。外に出ても、歩いている人影もなく殺伐としています。そんな中で生活している祖父母の気持ちを考えて、胸が痛くなります。

祖父母に話を聞いてみると、これまで気軽に隣近所の人たちと交わっていた挨拶や、何気ない会話をするのもなくなり、普段買い物をしていたお店も流されたので、遠くのスーパーまで買いに行ったりと、何かと不自由だったり、不便な思いがたくさんあるようです。

二人でぼつんと家にいるだけの日が多くなったと言っていました。だから私や妹、いとこが会いに行くと、とても嬉しいと喜んでくれます。私の姿を見るだけで喜んでくれる祖父母。そんな時、祖父母にはずっとずっと元気でいてほしいと願わずにはいられません。そして、祖父母と同じように、心の中では寂しい思いを抱えている人はたくさんいるのだらうなと感じるのです。

大震災後も、宮城では度々地震があり、ニュースで地震速報が流れると、母はすぐに祖父母に電話をかけ、私も話をします。なぜなら、私や妹の声を聞くだけで祖父母が元気がでると言ってくれるからです。ささやかな幸

せを届ける、小さな気遣いを積み重ねることが大事なのかなと思うのです。私は今、祖父母とは遠く離れて住んでいて、何かあってもすぐにかかけつけるということができるわけではありません。けれど、元気な姿や声でたとえ離れていても勇気づけることはできています。寄り添うことは、近くにいることだけでなく、忘れないことではないでしょうか。

3月11日のあの日、世界中の人が、一人でも多くの生存を願い、祈りました。そして被災地で救命活動を行いました。今の私はまだ中学生で、大きなことはできないけれど、被災地で暮らす祖父母を励まし、寄り添うことはできます。僅かな時間の揺れと、牙をむいた津波によって被災地の人々の生活や人生は大きく変わってしまいました。私の大好きな祖父母のこの辛い体験を受け止め、私は今日の前にいる家族や友達を大切にし、思いやりを持って、寄り添い接していこうと思います。その人に寄り添うことは、その人を忘れないことだと思うから…。

丹波市では、年齢や性別に関わりなく、だれもが地域社会や職場、家庭において個性と能力を発揮し行動できる男女共同参画社会の形成を目指し、平成25年に第2次丹波市男女共同参画計画「丹の里 ハーモニープラン」を策定しました。

その中で、あなたの家庭生活、職場、地域社会において社会観念や慣習として「男性だから」「女性だから」といった社会的につくられた性差（ジェンダー）が存在していないか、一度チェックしてみましょう。

ジェンダー・チェック

質問に答えてあなたの傾向をチェック！



A／家族関係をチェック！

「五分五分」のはずの男女関係も、よくみると思わぬアンバランスがあります。

- | | | |
|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ① 女性は、いつも男性の好みを優先させて献立を考える。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ② 男性は「だれに食わせてもらっているんだ」とよく言う。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ③ 男性を「主人」と呼ぶのは当然だ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ④ 男性の経済力（資産や所得）が女性の2倍以上ある。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑤ 女性は当然男性の家の墓に入るものだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

B／家事をしていますか？

男女問わず、できる人ができる事を！

- | | | |
|-----------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ⑥ お茶は自分で入れる。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑦ ゴミの分別ルールを知っている。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑧ トイレットペーパーの相場を知っている。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑨ 料理のレパートリーが5つ以上ある。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑩ 普段、トイレ掃除をしている。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

C／子育ての場面をチェック！

将来を想像したり、今を見つめたり、過去を振り返ったりしてみましょう。

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ⑪ 女の子はしとやかに、男の子はたくましく育てるべきだと思う。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑫ 父親は、いざというときに育児に参加すればいい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑬ 「女のくせに」「男のくせに」と叱ることがある。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑭ 女の子が成績がいいと、「つい、この子が男の子だったら」と思う。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ⑮ 男の子より女の子の言葉づかいが気になり、厳しく注意する。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

D／だれが？ だれのために？

老いはある日突然やってくるのではなく、今日の続きです。

- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ①6 ちらかすのは男性、片づけるのはいつも女性だ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ①7 家族のために自分を犠牲にする「耐える女性」が理想だ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ①8 寝たきりになったら、男性よりも女性に世話をしてほしい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ①9 食事やパーティーの場のもてなし役はいつも女性だ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②0 親が倒れたら、女性（娘や息子の妻）が退職して看病すべきだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

E／仕事と家庭のバランスは？

仕事を持つ女性の多くが仕事と家事のバランスで悩み、精神的にも肉体的にもクタクタになっています。

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ②1 「子育てしながらいい仕事も」と思う女性はわがままだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②2 いい仕事をするには、女性でも家庭のことは忘れるぐらいがいい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②3 子どもが小さいうちは、母親は外で働かない方がいい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②4 仕事のできる男性は、育児休業を取らない方がいい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②5 女性が両立に悩んでいたなら「無理せずに退職を」とアドバイスする。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

F／レジャーや休日はだれのため？

家事での協力が進み、社会的な舞台での女性の活躍が増えていますが、余暇やレジャーのシーンではどうでしょうか。

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ②6 デートの費用はいつも男性がもつものだと思う。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②7 家族の休みの日は、女性がかえって忙しいものだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②8 男性は休日は趣味や仕事の仲間と過ごせばいい。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ②9 女性に比べて男性のレジャーの方が費用がかさむものだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |
| ③0 家族の中で、ボランティアや地域の活動に熱心なのは女性だけだ。 | ☐ はい | ☐ いいえ |

ジェンダー・チェック 採点カード

はい…1点、いいえ…0点 として計算してください。

※ Bの項目は、はい…0点 いいえ…1点 として計算して下さい。

A	家 族 関 係	点
B	家 事	点
C	育 児	点
D	介 護 と ケ ア	点
E	仕 事 と 家 庭	点
F	余暇・社会活動	点

あなたの得点

点

ワンポイント・ アドバイス

判定

★26点～30点 停滞中です

高得点は赤信号。性別にこだわりすぎて男女平等への道を停滞させています。

男性は仕事だけ、女性は家庭だけという古い認識に忠実で、子どものいる女性が職業を持つことに対しても後ろ向き。今すぐ進路変更が必要です。

サービスエリアでお茶でも飲みながらゆっくり考えてみませんか。



★16点～25点 点滅信号、要注意です

家族の中に、性別による決めつけや男性優位の傾向がかなりあります。不満や疲労のサインが点滅しています。家庭が男性にとっても女性にとっても同じように居心地の良い場所になっていますか。

特にどの分野が高得点（要注意）なのか、もう一度チェックしてみてください。メンバーが「自分らしく」生きる家族ってどんな家族なのか、これをきっかけに考えてみましょう。



★6点～15点 手をあげて横断歩道を渡りましょう

女性にとっても男性にとっても、この世の中昔よりは選択肢も広がり、生きやすくなっているのだから、このままいけば世の中は自然に変わると安心していませんか。でも、あなたのパートナーが変わらなければ、世の中はこのまま。男女平等のために、ハッキリ手をあげるのはあなたの役目です。



★0点～5点 全方向OK、スクランブル家族です

性別にこだわらず、好きな生き方ができるスクランブル交差点のような家族です。家族が協力しあい、努力して男女平等の関係を築き上げてくれたのでしょう。

性別による一方通行や進入禁止が多い家族よりスクランブル家族の方が居心地がいいことを、周囲や後の世代にも伝えてあげてください。あなたの家族の生き方を、他の家族にも広げていきましょう。



平成26年度 人権啓発ポスター「優秀作品」



【優秀賞】 黒井小学校 6年 三浦 夕佳



【優秀賞】 東小学校 5年 山下 賀己



【優秀賞】 柏原中学校 1年 豆田 唯



【優秀賞】 山南中学校 2年 梅田 和見



【優秀賞】 氷上中学校 3年 三森 水晶

今年もたくさんの児童・生徒が身近に考える人権について、描いてくれたよ！みんなが考える「人権」素敵だね。市民一人ひとりがお互いの人権について考え、気づくことができれば、みんなの願う素敵な丹波市になれるはず！





【優良賞】

柏原中学校 2年

原田 ひかる



【優良賞】 崇広小学校 5年

あだち みゆか
足立 美冬花

平成26年度

人権啓発ポスター「優良作品」



【優良賞】

春日中学校 3年

西本 天音



【優良賞】 久下小学校 6年

こみや りょうた
小宮 良太



【優良賞】

氷上中学校 1年

大木 千咲

平成26年度じんけん標語『優秀・優良作品』

優秀賞

さがそうよひとりひとりのいいところ

久下小学校 5年 高瀬陽菜

あいさつは心のとびらを開くかぎ

南小学校 6年 松本凌佳

思いやり人から人への贈り物

市島中学校 1年 荻野華恋

いじめから背を向けずに目を向けて

和田中学校 2年 土井悠愛

広めようちがいを認めるそのきもち

春日中学校 3年 源智紀

優良賞

つなごうよ相手の心と自分の心

大路小学校 5年 阿部日ノ歌

僕らの手みんなで合わすと暖かい

黒井小学校 6年 水谷風哉

「大丈夫？」その一言で救われる

市島中学校 1年 平井路乃

あいさつは心を開く第一歩

春日中学校 2年 山下こころ

「いけないよ」友達だから注意する

市島中学校 3年 塩見栞那

「人権文化をすすめる市民運動」について

「人権文化」とは……

日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたり、行動することが定着した生活の様子をいいます。

例えば、混んだ電車やバスでお年寄りや体の不自由な人に出会ったとき、声をかけたり、自然に席を譲ることができたり、雨の日に車で走行中に歩行者に出会ったとき、泥水がかからないように車のスピードを落したり、相手のことを考えた行動をとることが自然とできることです。

～「人権文化」をすすめるために～

日常生活のすべての場面で、身近なことについて人権の視点から見つめ直し、感性を高め、行動につながるように努めましょう！

「あいさつ」から

人と人のコミュニケーションは気持ちのよい「あいさつ」からはじまります。他の人を理解する出発となるのが「あいさつ」です。

「共生の心」から

人は、一人で生きているわけではなく、お互いに支え合って生きています。

他の人の人権を守ることが、自分自身の人権を守ることにつながります。常に自分の人権と他の人の人権が共存していくように「共生の心」をもつことが大切です。

「相手を思う想像力」から

日常生活の中で、相手の人権について全く気づいていなかったり、そのことが深刻な問題であるという認識に欠けていたりして、知らず知らずのうちに他の人の人権を侵害してしまうことがあります。お互いの人権に配慮し「相手を思う想像力」を育むことが大切です。

「感性を育むこと」から

日常生活において、自分の人権のみを主張することが、他の人の人権を侵害する場合があります。人権侵害を受けた当事者の声に耳を傾けたり、さまざまな情報に積極的に触れることなどを通して、人権侵害の痛みがわかる「感性を育むこと」が大切です。

「多様性の容認」から

社会は、さまざまな価値観をもった人やいろいろな年齢、国籍の人によって成り立っています。自分と異なる人を変わっているからと、排除したり、認めないというのではなく、一人ひとりがお互いの違いを認め、お互いの人権を尊重する「多様性の容認」をすることが大切です。

「さまざまな人との交流」から

人を思いやり、心を通わせるためには、人のことをよく知り理解することが大切です。そのためには、自分の心を開いて、年齢、性別、国籍などにこだわらず「さまざまな人との交流」をすることが大切です。



あなたの「色」を大切に・・・。



発行：丹波市

編集：まちづくり部人権啓発センター

〒669-3692

兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀 1 番地

TEL: 0795-82-0242 FAX: 0795-82-5448